

INSIGHTOUT

ROUND #6 [生活動力2008]

手ごたえ経済

実感をつかまえる幸福へ

生活総研



生活動力2008の考え方

自然環境や人口動態、技術革新など、様々な時代のインパクトを受け、生活者は進路を変えていきます。人はそれら社会環境への適応性と弾力性を持った生き物です。同時に、変化する環境の中で、自らの欲求により暮らしを改編していきます。

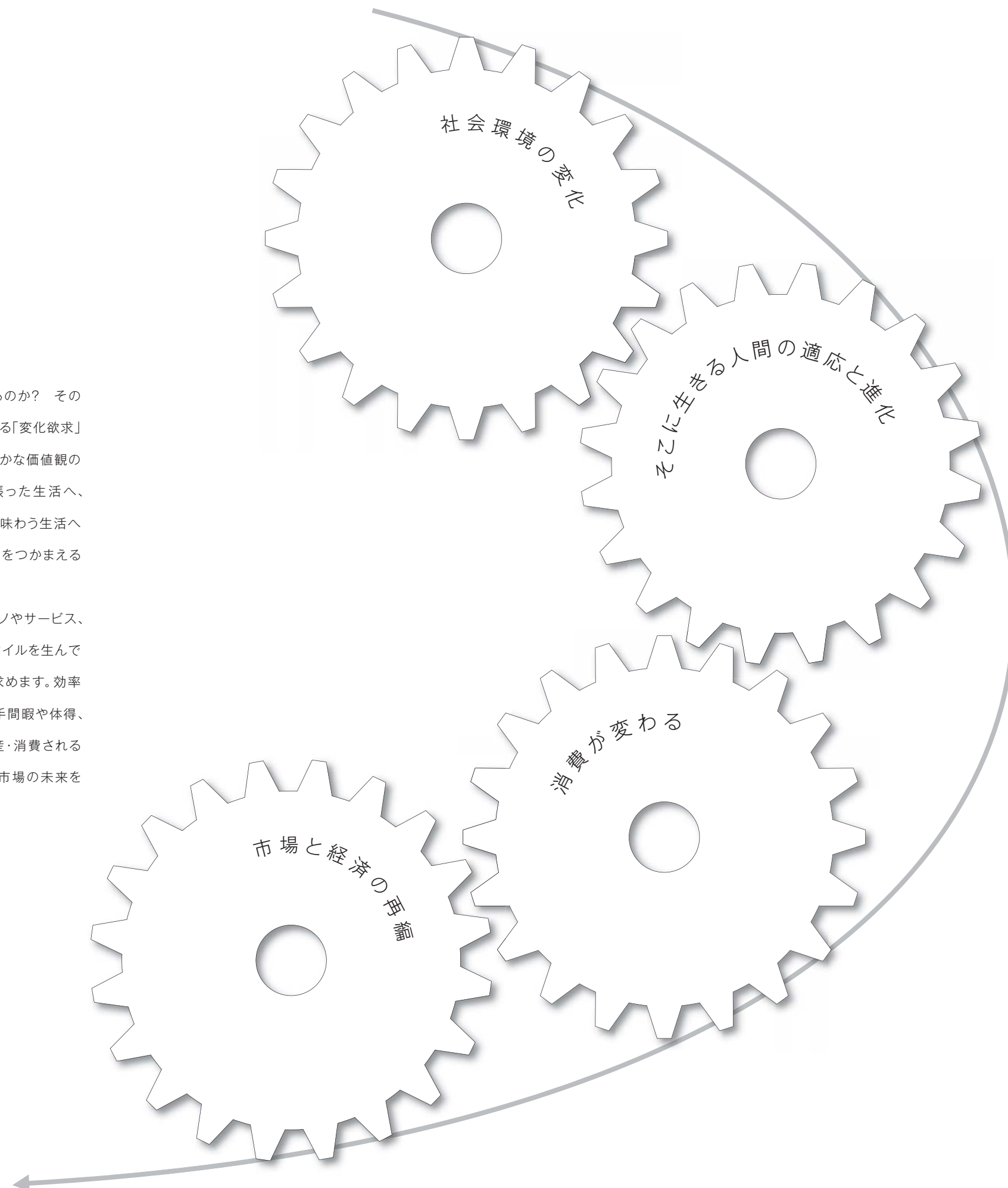
生活総研では、こうした次の生活を形づくっていくダイナミックスを『生活動力』と呼び、毎年、年初にその発表と提言活動を行っています。本レポートは、2008年版の『生活動力』の骨子をお伝えるものです(※)。

今回の『生活動力』のテーマは、次の時代の幸福と、そこに求められる経済のあり方です。長い不況のトンネルを抜け出した日本ですが、人々の気持ちは不安に覆われたまま、なかなか新しい幸福のモデルが見えてきません。日々の報道を見ても、政治から世情まで、秩序の崩壊と混乱は止むところを知りません。

※本レポートは要点のみを編集したダイジェストです。詳しい内容につきましては、『生活動力2008』の書籍(A4変形判 184ページ 2008年1月18日発刊)をご覧ください。

——生活者はどんな幸福へ向かおうとしているのか？ その進路を知るために、私たちは、人々の心の中にある「変化欲求」を探る調査を実施しました。調査結果には、明らかな価値観の転換が映し出されています。しっかりと根を張った生活へ、手と身体を動かす生活へ、努力と労苦の成果を味わう生活へ…人々が目指しているものは、生きている実感をつかまえる幸福、つまり【手ごたえ】のある暮らしです。

【手ごたえ】の獲得を指針とする生活進路は、モノやサービス、場やコンテンツへの期待を変え、新しい消費スタイルを生んでいくでしょう。価値観の転換は、経済の転換を求めます。効率性と合理性が価値として取引される経済から、手間暇や体得、知識の重みなどの【手ごたえ】が価値として生産・消費される経済へ。【手ごたえ経済】という視点が、生活と市場の未来を創造していく上での一助となれば幸いです。



1. 環境認識

バブル崩壊の陰で、日本が本当に失ったもの

日本の喪失五力

《大地の力》が痩せていく 食料自給率低下/環境汚染/地球温暖化

《身体の力》が落ちていく 技能忘却/知力停滞/体力低下

《倫理の力》が外れていく 教育崩壊/官民不祥事/治安悪化

《連帯の力》が薄れていく 流動化/少子高齢化/多世帯化

《均衡の力》が崩れていく 情報格差/賃金格差/地域格差

生存や生命の実感が持てない、《生》が希薄化していく時代

不安と疑問と苛立ちの中で
「変化欲求」が芽生える

2. 生活者のベクトル

人々を次の幸福へ向かわせる3つの欲求

根の欲 根の確認/根の深化/根の連結

手の欲 手間暇/手仕事/手触り

果の欲 創造の果実/関係の果実/挑戦の果実

根を張り、手を動かし、果を得る…

そのことを通じて、生きている実感を獲得する

【手ごたえ行動】が始まる

3. 市場の未来

手ごたえが価値として生産・消費・交換される市場へ

【手ごたえ経済】の誕生

関わり育てる【プロセス】が価値になる

育の消費

ヒト・モノ・コトの【重み】が価値になる

重力消費

動き・触り・感じる【体得】が価値になる

五体消費

乗り越える【ハードル】が価値になる

逆境の消費

現実とネット世界の【連動】が価値になる

ツインリアル消費

価値観の転換が
新たな消費を生み出す

1. 環境認識 日本の喪失五力

《大地の力》が痩せていく

温室効果ガス排出量は13億4,100万トン(2006年)。
1995年から13億トン台のままで減少せず。

※環境省 地球環境局地球温暖化対策課資料

生活環境が悪化。騒音・振動・悪臭に関する苦情件数は、
3万9,200件(2005年)にも達する。

※環境省 水・大気環境局

日本の食料自給率の低下に歯止めがかからず。
2006年、ついに40%台を下回る。

※農林水産省「食料需給表」／FAO*Food Balance Sheets*

《身体力》が落ちていく

2000年、2006年の国際学力テスト比較。日本人は、
数学的活用力が1位から10位、読解力が8位から15位へ低下。

※文部科学省「OECD生徒の学習到達度調査(PISA) 国際結果の要約」／OECDホームページ

9歳男児の立ち幅跳びの平均距離は146.6センチ(2006年)。
20年前に比べ、約9センチ縮まる。

※文部科学省「体力・運動能力調査」

技能継承を危惧。団塊世代の大量退職に
危機意識を持つ企業が54%と過半数。

※文部科学省調査(2006年2~3月)／研究開発を実施する資本金10億円以上の企業 857社[有効回答数]

《倫理の力》が外れていく

年間犯罪件数は1985年に比べ、4割増の227万件。
検挙率は29%に留まる(ともに、2005年)。

※警察庁「警察白書」

児童虐待問題相談件数は、1995年2,700件から
2006年3万7,300件へと14倍の激増。

※厚生労働省「児童相談所における児童虐待相談対応件数等(社会福祉行政業務報告)」

社会に横行する不祥事・不正。

関連記事数は、3万1,200件(2006年)にも達する。

※日経テレコン21 記事検索／対象紙は日経、朝日、毎日、読売、産経(いずれも朝夕刊)

バブル崩壊の陰で日本が本当に失ったもの

「失われた10年」、この言葉は一般的にはバブル崩壊後の景気

低迷期を指しています。その後、日本経済は堅調に回復しつつ

あり、日本は一度失った経済力を確実に取り戻しつつあります。

しかし、依然として世の中には暗い雰囲気、不安な気持ちがあふ

れています。バブル崩壊、その後の景気回復の陰で日本は何か

大切なものを失ったままになっているようです。生活者誰もが

心の奥底では感じていて、生活に暗い影を落としていること、

日本が失ってしまった五つの力をこれからご紹介していきます。

日本の喪失五力

日本の大地は生活者を養い、育て、守ってくれています。しかし、

地球温暖化、生活環境の汚染などにより、日本の大地は病魔に

侵されています。食料自給率も低下し、今では日本人の胃袋の

半分も満たしてくれません。《大地の力》が急速に痩せ細って

きています。

技術の進歩により、私たちの生活は昔と比べてはるかに便利に

なりました。しかし、その半面、人が自分の手、肉体、頭を使う

機会が減りました。日本人が育んできた知力、体力、技の力、こう

した《身体力》が徐々に徐々に失われつつあるようです。

素晴らしい国民性と諸外国からも賞賛されていた道徳心や

勤勉さも消えつつあります。治安は悪化し、教育は崩壊し、企業

や国・地方自治体の不祥事が続々と露見しています。日本人の

根底に流れていた《倫理の力》が外れつつあります。生活者は

疑心暗鬼になっているようです。人を信じ、思いやり、まじめに

生きるという日本人の国民性・人間性が希薄になり、倫理の力

が作用しなくなりつつあります。

家と職場、日本人の生活の基盤である2つの場所が、人と人と

をつなぐ力、《連帯の力》を急速に失いつつあります。核家族化、

ひとり暮らし世帯の急増で家族の触れ合いは薄れています。

終身雇用制度が崩れ、職場の人間関係も希薄になっています。

誰もが普通に働いていれば、経済的に豊かな人生を送れると

信じていた「1億総中流社会」はもはや過去のことです。地域

格差、所得格差、情報格差などが広がり、日本全体でバランス

をとる力、《均衡の力》が崩れつつあるようです。

《生》が希薄になっていく時代

こうした5つの力の喪失は急速な進化がもたらした社会の「歪み」

だと考えられます。産業発展が大地を壊し、技術革新が肉体の

働きを奪い、経済原理が格差と不義を生み、情報爆発が逆に

人の心と真実を見えにくくしています。確かに便利で効率的な

世の中になりました。家事や仕事のスピードと生産性も上がり、

暮らしは楽になりました。しかし、経済・技術・情報主導の社会

進化の過程で、生活者は人間が本来持っていた繊細な感受性、

豊かな人間力、深い道徳心などを失いつつあることも事実です。

自分が生きる大地の生態系は壊れ、カラダは衰え、人や社会を

信じることも、深くつながることもできない。そんな厳しい時代

環境の中で、生きがいを見つけることができない、自分が生きて

いることを実感できない、そんな「生の実感」が希薄な時代へと

日本は動いています。

《連帯の力》が薄れていく

2007年、単独(ひとり暮らし)世帯が
夫婦と子供の世帯を上回り、最多世帯となる。

※国立社会保障・人口問題研究所 将来推計人口データベース

雇用者に占める非正規社員の割合は
33%(2006年)を占め、20年で倍増。

※総務省「労働力調査」

1995年以降、大卒就職者の

3人に1人が入社3年以内に離職。

※厚生労働省「労働経済白書 労働経済の分析」

《均衡の力》が崩れていく

現金給与額(2006年)は、トップの東京(41万円)と
最下位の沖縄(24万円)で17万円の大差。

※厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

生活保護受給世帯は、107万6,000世帯(2006年)。

1995年と比べると、1.8倍の大幅増加。

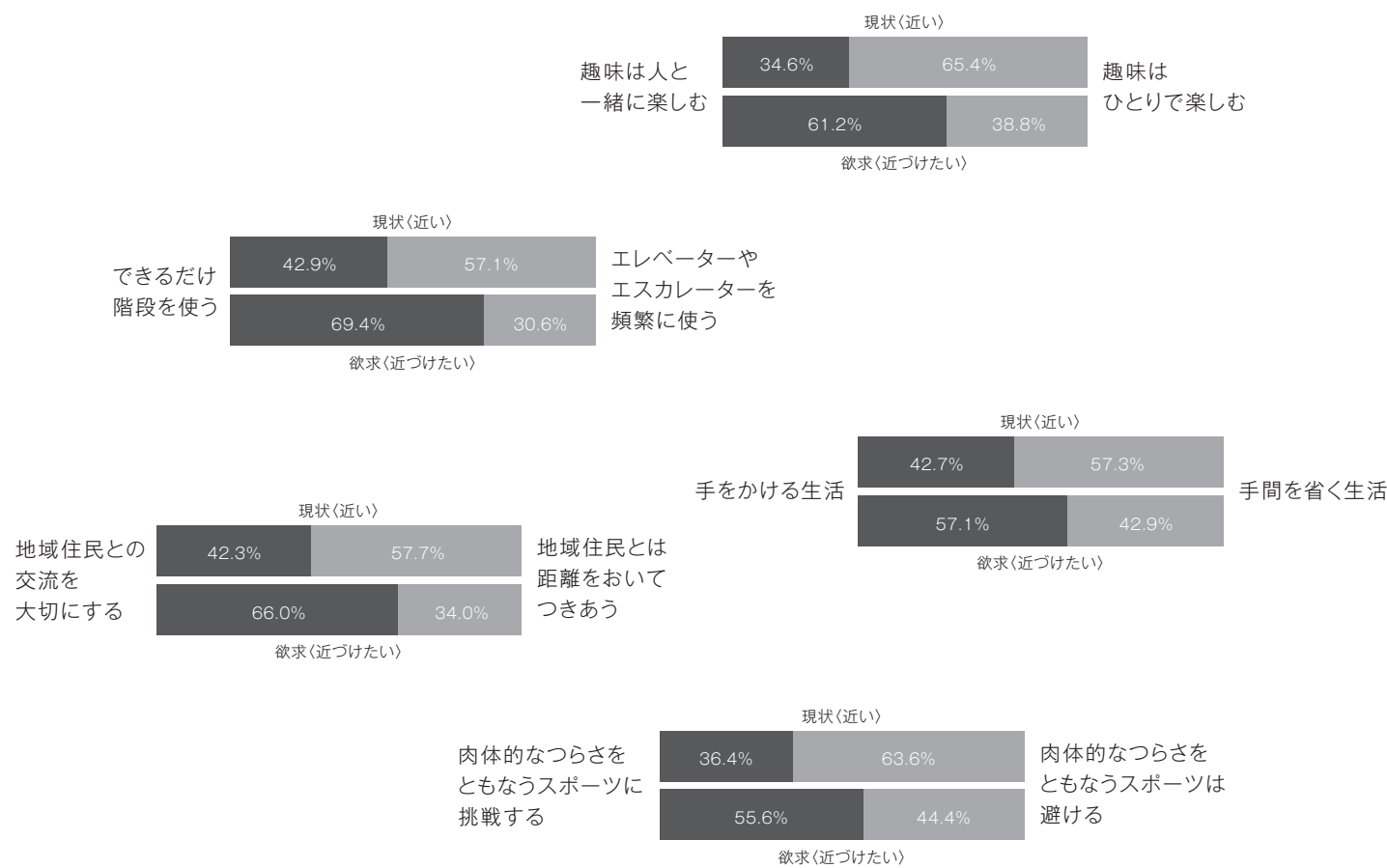
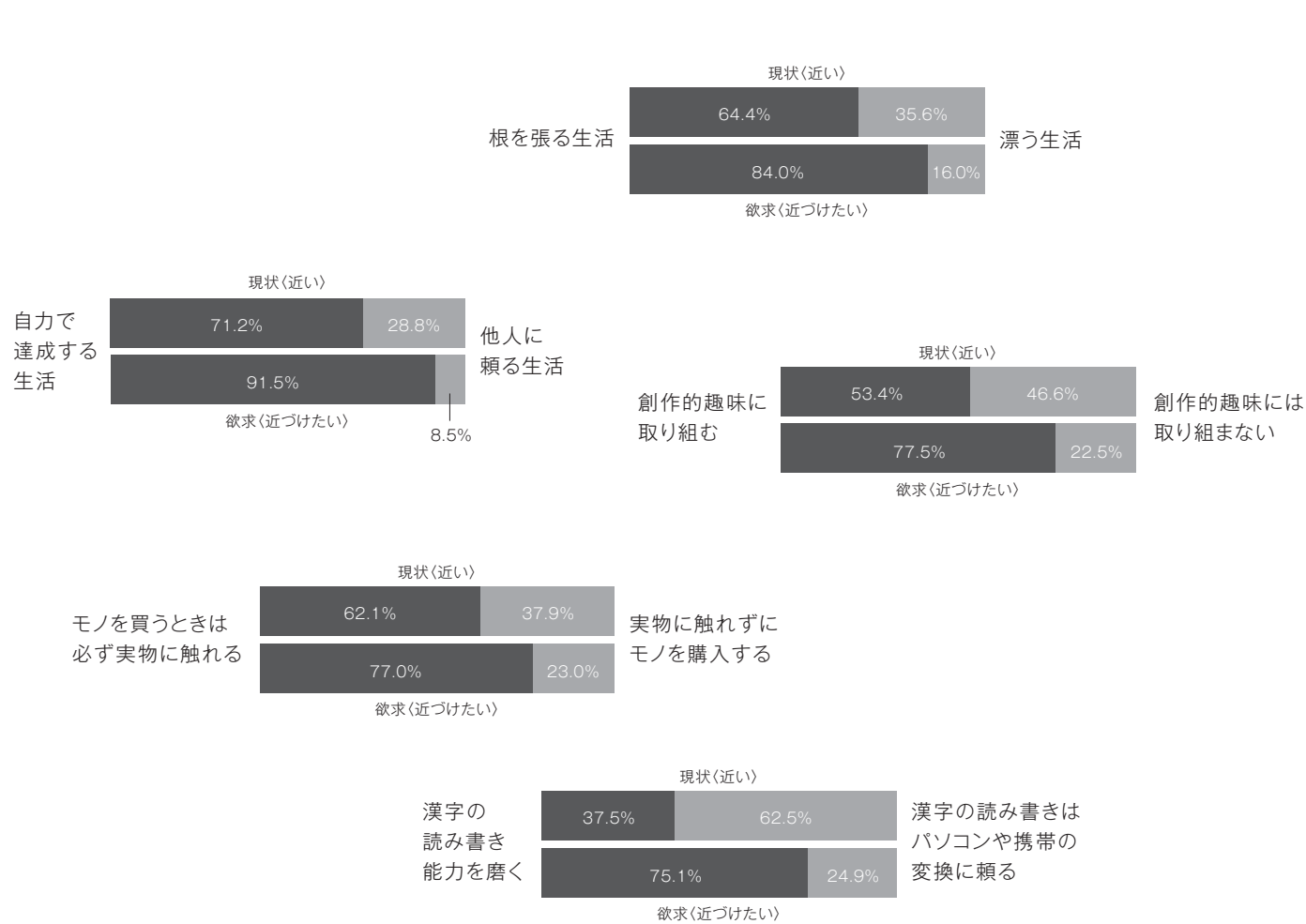
※厚生労働省「社会福祉行政業務報告(福祉行政報告例)」

都道府県間でインターネット利用率(2006年)に格差。さらに、
各県の人口集中地区とその他地区でも利用率に差が生じている。

※総務省「社会生活基本調査」

2. 生活者のベクトル

根の欲 手の欲 果の欲



※変化欲求調査 15～69歳 男女／3428サンプル(有効回収数)／全国／インターネット調査／2007年11月

不安と焦燥が新たな欲求を生む

こんな喪失の時代である現代には、不安、不満、焦燥、悲壮感があふれています。2007年11月に博報堂生活総研が実施した「社会イシュー調査」によると、生活者は前項で紹介した5つの力が失われつつあることを認知し、そのことに強い不安を感じているようです。しかし、心の奥底で不安を抱えながらも、生活者の中には「このままではいけない」、「自分の生活や人生を変えたい」、「自分にとっての幸せとは？」…、そんな疑問や意思が多数生まれ、彼らは生き方の見直しを始めています。決して不安な気持ちでひきこもっているわけではありません。日本社会が抱えている問題の解決のために、自分が生きている実感を取り戻すために、前向きに行動していこうという生活者の強い意思が感じられます。

根の欲 手の欲 果の欲

新しい生活の進路を探るために「変化欲求調査」を行ったところ、生活者の中に芽生え始めた3つの新欲、根の欲、手の欲、果の欲が明らかになりました。

情報化やグローバル化の進展で広がった世界で、生活者は自分の生活の根を見失ってしまったようです。自分の根元(アイデンティティ)を確かめたい。根をしっかり張った落ち着いた生活を送りたい。表層的ではなく、深い根で人とつながりたい。そんな根の欲求が生活者の中で湧き出し始めています。

技術革新は生活の省力化、効率化へと導いてくれました。食事、掃除、洗濯、買い物、移動、計算、こうした生活行動の大半が自動化されました。しかし、その反動で生活者の中には手間暇をかけた、手仕事をしたいという欲求が生まれています。また、

人の温もりやモノの存在感を直に触れて確認したい、手触りを重視する志向も見られます。自分の手をのばし、手を動かし、手間暇をかけ、手で触れたい、手の欲求が高まりつつあります。

生活者は自分が生きていることを実感するために果を求め始めています。果とは自分が生み出した結果、やり遂げた成果、育てあげた果実です。果は生活者それぞれで異なります。自分の分身である子ども、腕を磨いてつくりあげた創作物のような有形の物から、友人・家族からの感謝・評価、難易度の高い仕事を成し遂げた達成感のような無形の物まで多岐にわたります。

手ごたえ行動へ向かう生活者

根を張り、手を動かし、果を得た先にあるもの、それが【手ごたえ】です。日本が持っていた大切な力が失われ、不安や苛立ちが

まん延する社会で、人は「生きている実感」を持てなくなっています。この「生きている実感」を平易な言葉で表現すると、生活の【手ごたえ】です。

【手ごたえ】とは、人が自分以外の何かと相対し、働きかけ、結果として手に入れる反応のことを意味します。生活者は手ごたえを得るための行動をとりはじめています。その動因が3つの欲の芽生えです。自分の根が張れていない状態では手ごたえを得られる腰の入ったパンチは打てません。根がしっかりしていても、手をのばし、触れなければ、手ごたえは生まれません。根を張って、手をのばしても、何も成果がなければ、手ごたえはゼロです。根を張り、手をのばし、果を得る、この一連の流れが、人が手ごたえを得るための行動、【手ごたえ行動】です。生活者は喪失の時代を乗り越えて、前向きに動き始めています。

3. 市場の未来 【手ごたえ経済】の誕生

生活者の進路変更が消費を変える

しっかりと根を張った生活へ、手と身体を動かす生活へ、努力と
労苦の成果を味わう生活へ…いま、【手ごたえ】の獲得を指針と

した生活者の進路変更が始まっています。新たな進路の上では、
どんな財・サービスが求められ、どんな消費シーンが展開される
のでしょうか。

手間暇や労苦をとまなう手ごたえ行動は、一見、安楽な暮らし
方と相反する行為のようにも思われます。生活者は、不便で
非効率だけれど張り合いのあった「古きよき時代」へと回帰して

いくのでしょうか？ そうではありません。社会には慣性力があり
ます。人間の不便と不快を軽減するための合理化、効率化は
未来においても続いていくはずです。また、その利得を望んで

いるのは生活者自身でしょう。先進的な技術と高度なサービスを
利用しながら、自らの日々の【手ごたえ】をつくっていく、その
道筋が未来へのベクトルであるといえます。

次なる幸福へとカーブしていく進路変更の角度は、人々の価値
観の転換が生み出すものです。関わり育てるプロセス、動き
触知する体験、ハードルを乗り越えていく努力、それらを価値と

する心が、暮らしと消費を曲げていきます。価値観の転換とは、
人々の心の中で起こる変化。それは当初、一部の胎動として
表出し、時を経て大きな“うねり”を形成します。その“うねり”の

中には、右頁に記した「五体消費」や「ツインリアル消費」など、

手ごたえを得るための様々な消費が出現し、【手ごたえ経済】が
形成されていくでしょう。

苦楽の調和を設計する時代へ

これからの商品に組み込まれるべきは、人を愉快にしたり人を
感動させる手間や、人を成長させる抵抗など、苦と楽が調和
したベネフィットです。

価値ある不便とは何か？

価値ある苦役とは何か？

価値ある摩擦とは何か？

価値ある痛みとは何か？

価値ある無駄とは何か？

つまり、人にとっての「有益な非効率」のデザインが、モノづくり
やサービス、コンテンツの開発テーマとなっていくでしょう。

「幸福」とは、欲求が満たされている状態であり、その際に生ずる
満足感。「経済」とは、財やサービスを生産・分配・消費する活動。

この両者を円満につなぐものが価値です。【手ごたえ】という
新たな価値を生活者と共有し、これまでにない社会関係を生み

出すこと…それが【手ごたえ経済】のあるべき姿です。進路変更
をはかろうとする生活者の先へ出て、社会に「生きている実感
をつかまえよう」というフラッグを立てる、そこに創造的革新が

あるのだと思います。

関わり育てる「プロセス」が価値になる

育の消費

動き・触り・感じる「体得」が価値になる

五体消費

現実とネット世界の「連動」が価値になる

ツインリアル消費

ヒト・モノ・コトの「重み」が価値になる

重力消費

乗り越える「ハードル」が価値になる

逆境の消費

子育てを始めとする「育てる」ことほど、手ごたえを
感じるものではありません。動植物の育はもとより、自分の
リテラシーを育てる「デジ育」や、使い込みながら価値が
高まっていく「増価品」が大きな市場となっていくでしょう。
育てるとは、未完成のものに関わること。生き物や商品
との対話が、人の不安と苛立ちを消していきます。

いま、生活者が求めているのは、身体感覚を呼び覚ま
すタンジブルな（触知できる）行動。人が自然とカラダを
動かしたくなるような道や公園など「五体都市」のデザ
インが注目されるでしょう。また、メールでのやりとりが
中心の時代だからこそ、手をつなぐ、ハグするといった
カラダで心を表わす「体話の場」づくりが必要です。

ケータイ小説は、リアルな生活風景がネット上で公開され、
そこに集まる感想が、またリアルなクチコミにフィード
バックされます。ブログの魅力は、見られる快感。自己
の「被写体化」がその人の現実の自信にも作用します。
オンラインとオフライン、双方の実感をシンクロさせな
がら、手ごたえを増幅していく消費が始まります。

“いまいま”から“そもそも”の幸福へ。浮き草のように漂う
ことなく、本質と源流を問い直す行動が活発化します。
衣食住といった「第一次生活」の再設計や、商品に教養
と品格を求める「積み重ね知」の消費などが新市場を
生み出します。重みとは、内実の深さや濃度。モノ・サー
ビスの「奥行き」が手ごたえになる時代です。

地域の抱える問題に果敢に挑戦し、市民事業の推進や
生活実験を通じて、地域を再興していく…そんな「起域
者」が増えています。世興しは大きな手ごたえ。社会
起業家（ソーシャル・アントレプレナー）を養成する教育
ビジネスや、生活運動ネットワークを支えるサービスが、
新たな「手ごたえ産業」となっていくでしょう。

英会話…海外旅行で少し使ったが、日常でもどこかで使って自信につなげたい(女性61歳)

スクワット…毎日100回のスクワットをやっている。足腰が衰えないように、旅行に行けるように…(女性74歳)

質問の質…写真俳句というものを作り始めたので、コンテストに応募して反応を見たい(男性69歳)

感動したくなる(女性46歳)

本の読み聞かせ…社会参加をしていると感じられる(女性57歳)

健康 (1分)

ネットオークション…相手との質問等で「人対人」を感じる(男性57歳)

写真俳句の作品

小さな親切での感謝…ただ喜んでほしいから(男性27歳)

バスケットのプレー……地走

魚釣りでの釣果…大物を釣り上げた時の快感が忘れられない(男性36歳)

料理…旦那や子どもが「おいしーい」って褒めてくれたら嬉しい。子どもが

小説などの全巻読破…長編であればあるほど、達成感が得られる(男性56歳)

趣味のハングライダーでの飛行...私は飛べる、飛んでいる、という実感を欲しなので(女性24歳)

ハンガライダーでの飛行…私は飛べる、飛んでいる、という実感が欲しいので(女性24歳)

インテリア…特に玄関飾りを毎月替える事で、季節の移り変わりを感じたい。

結果がなって収穫できたら、とても嬉しい。

趣味のハンク

インテリア...特に玄関飾りを毎月替える事で、季節の移り変わりを表現する。

ガーデニング...実のなる木に、たくさんの果実がなつて収穫できたら、とても嬉しいから(女性47歳)

手ごたえを指針に幸

ジムで体を鍛える事...小

料理…おいしいオリジナルができると、「エヘッ」と思う(女性37歳)

趣味…趣味を持つのに
(男性72歳)

町会の運営…町会長として、町民が積極的

白曜大工…頭で考えていたものが形になる喜び(男性44歳)

ダイエット……
(女性34歳)

19歲)

手ごたえを指針に幸福の進路が変わる。

※「手ごたえの種」調査 21～74歳 男女(生活総研調査パネル)／318サンプル(有効回収数)／首都圏／郵送調査／2007年10～11月実施

生活総研

嶋本達嗣

高橋哲久

夏山明美

山本貴代

南部哲宏

吉川昌孝

古澤直木

笥 裕介

斎藤竜太

平澤広子

関沢英彦

藤原まり子

デザイン

松本哲治

株式会社ASTRAKHAN

校閲

株式会社円水社

印刷

日経印刷株式会社

2008年1月18日 発行

通巻7号

発行人

嶋本達嗣

発行所

株式会社博報堂

編集所

博報堂生活総合研究所

東京都千代田区神田錦町3-22

〒101-0054

tel.(03)3233-6450

<http://seikatsusoken.jp/>

Copyright 2008

Hakuhodo Institute of Life and Living.

Hakuhodo Inc.

All rights reserved

Printed in Japan